

南阿蘇村観光復興プロジェクト交流協議会に支援金を助成 ～「つなぐ、つながる南阿蘇プロジェクト」を応援～



12月13日、南阿蘇村役場旧久木野庁舎において、「つなぐ、つながる南阿蘇プロジェクト」の事業発表会並びに支援金の目録贈呈式が行われました。

2017年12月13日（南阿蘇村役場・旧久木野庁舎）

地域の活性化支援

12月13日、南阿蘇村内の事業者らが立ち上げた南阿蘇村観光復興プロジェクト交流協議会※（執行代表 河津誠）の「つなぐ、つながる南阿蘇プロジェクト」に、支援金1,000万円を助成した。これは、キリン株式会社が、熊本県、日本財団との包括支援協定「『復興応援 キリン絆プロジェクト』熊本支援」の一環として行ったもので、支援の「3つの幹」の一つ、「地域の活性化支援」として実施した。

「つなぐ、つながる南阿蘇プロジェクト」は、同交流協議会内の業種を超えた40代以下のメンバー20名で構成された「つなぐ、つながる南阿蘇未来会議」が中心となって推進するもの。贈呈式に先立って行われたプロジェクトの事業概要発表では、同プロジェクトのリーダーを務める増田一正さんらが、「南阿蘇にしかないオンリーワンの価値の発掘」「柱となる観光商品の育成」「人、自然などの地域資源をつなぐ場の創生」といった、活動の趣旨を説明。併せて、その第一歩として取り組む、南阿蘇の星空と草原をつなぐ「宙（そら）ツーリズム」の開発や「観光商品販売所」設立についても説明が行われた。今後、同プロジェクトでは、支援金を観光商品の開発、モニターツアーの実施、南阿蘇村の観光情報の発信などに活用していく予定だ。

※南阿蘇村の68の事業者が熊本地震からの復興・復興を目的に復興事業計画を実現するために、平成28年10月に設立した団体。現在、事業者数は、119まで拡大



笑顔で結ぶ。人を、日本を。

コメント①

南阿蘇村観光復興プロジェクト交流協議会 執行代表 河津 誠 様

熊本地震後、南阿蘇村の68の事業者で立ち上げた南阿蘇村観光復興プロジェクト交流協議会も、現在、119まで拡大しました。これも、南阿蘇村で事業を営む皆さんが、この地で暮らし、商売を行うことを諦めなかったからに他ならないと思います。その中で「つなぐ、つながる南阿蘇未来会議」は、40代以下の若々しい発想で村の魅力を引き出し、さらに磨きをかけて未来を切り拓いてくれると期待しています。また、そうした活動を力強く後押ししていただいたキリングループ様をはじめとする皆様にも、心から感謝申し上げます。ここで生まれた新たな絆と縁が、今後の村の復興につながればと思います。



コメント②

南阿蘇村企画観光課 課長 倉岡 英樹 様

河津代表の下、119の事業者が一丸となって復興事業計画実現に向けて頑張っておられる「南阿蘇村観光復興プロジェクト交流協議会」の活動に感謝申し上げます。また、キリンビール株式会社様、日本財団様には、『復興応援 キリン絆プロジェクト』熊本支援を通じて、これまでも南阿蘇村にきめ細かなご支援をいただき誠にありがとうございます。今回の「つなぐ、つながる南阿蘇プロジェクト」は、将来の南阿蘇村の礎となる取り組みです。今後も、村と皆さんで協働しながら、復興に向けて歩みを進めてまいりたいと思います。



コメント③

南阿蘇村観光復興プロジェクト交流協議会「つなぐ、つながる南阿蘇未来会議」 プロジェクトリーダー 増田 一正 様

地震発生直後は私自身も途方に暮れ、仕事をやめて他の土地へ移ることも考えました。それを思いとどまることが出来たのも、グループ補助金やキリングroup様からの多くの支援のお陰です。今日、この贈呈式を迎え、あらためて身の引き締まる思いです。これから「つなぐ、つながる南阿蘇プロジェクト」を礎として、南阿蘇村にたくさん眠っている“光”を磨き、村の復興と未来につながるような活動に取り組んでいきたいと思います。本日は、本当にありがとうございました。



コメント④

南阿蘇村観光復興プロジェクト交流協議会「つなぐ、つながる南阿蘇未来会議」 高野 敦史 様

私は南阿蘇村のルナ天文台でスタッフとして勤めており、熊本地震では施設等が少なからず被害を受けましたが、多くの皆さんの支援で今も事業が続けられていることに感謝いたします。私がプロジェクトで担当しているのは、南阿蘇にしかない「ぶっちぎりの価値」を持った星空と草原をつないだ「宙（そら）ツーリズム」商品の開発です。「プレミアム・ナイトツアー」として商品化を目指し、すでにモニターツアーを開催しました。今後、実施体制の整備やマーケティングを進めながら、2018年4月以降に本格的に販売を開始していきたいと考えています。



コメント⑤

南阿蘇村観光復興プロジェクト交流協議会「つなぐ、つながる南阿蘇未来会議」 久永 操 様

私は、南阿蘇鉄道の長陽駅でシフォンケーキ店を営んでいます。熊本地震後、一部区間では復旧したものの、長陽駅のある区間は、まだ復旧の目途も立っていません。そうした状況でも、村内の事業者の皆さんは南阿蘇村観光復興プロジェクト交流協議会などの活動を通じて、知恵を出し合って頑張っています。今回のプロジェクトでは、まず携わる私たち自身が、あらためて村のことを知ることからはじめ、商品企画、歴史発掘など、いくつかのチームに分かれ、地域資源の棚卸しを行いました。その中で見つけた様々な村の資源を商品開発に結び付け、観光協会などと役割分担しながら発信していきたいと思います。



コメント⑥

麒麟ビール株式会社熊本支社長 安武 直幸

本日、「つなぐ、つながる南阿蘇プロジェクト」の事業概要発表を聞き、大変感銘を受けました。地震によって奪われたものは計り知れませんが、こうして南阿蘇村の皆さんが「前を向いて進もう」とされている姿を見ると、地震が奪えなかったものもあると感じました。私たち麒麟ビールの九州エリアでは、「世界一の九州をつくろう。」のスローガンの下、九州、熊本にしかないものを全国、世界にアピールしています。今回のプロジェクトも、まさに「南阿蘇にしかないもの」を発信するものですから、私たちも微力ながらそのお手伝いができればと思います。



コメント⑦

公益財団法人 日本財団 経営企画部長 萩上 健太郎 様

今日の事業概要発表の中で、「南阿蘇村の光を皆で磨き上げていきたい」という話がありましたが、そこが「つなぐ、つながる南阿蘇プロジェクト」の最も大事なところではないかと思います。協議会に参加している119の事業者の方々が、世代や業種を超えて磨き合う関係を築くことが、南阿蘇村の未来にもつながるのではないのでしょうか。また、プロジェクトの中長期的目標の一つとなっている「雇用の創出」は、村に住む若い方たちが村に残り、将来的に“村の光”を磨く一員となってくれるという意味でも大きいと思います。今後も、村の未来を磨くために、皆さんと共に末永い活動ができることを願っています。



コメント⑧

熊本県観光物産課 課長 永友 義孝 様

麒麟ビール様、日本財団様には、これまでも阿蘇地域の観光面の復興に多くの支援をいただき、大変心強く思うと共に、あらためて心から御礼を申し上げます。県でも、熊本地震からの観光面の創造的復興を目指し、「ようこそ熊本・観光立県推進計画」を3カ年計画で進めてまいります。今回の「つなぐ、つながる南阿蘇プロジェクト」も、「つながりを力に」とのスローガンを掲げる県の計画に相通じるものがあると感じています。県でも、南阿蘇村の事業者の皆さんのグループ補助金申請や誘客キャンペーン等を通じて、最後までしっかりと支援していきたいと考えています。

